

祝 川崎市国際交流協会 川崎市国際交流センター

設立30周年

開設25周年

ご挨拶



(公財)川崎市国際交流協会
会長 平尾 光司

新元号、令和の幕開けと同時に川崎市国際交流協会は設立30周年を、国際交流センターは開設25周年を迎えることができました。これも皆様方の日頃からのご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

当協会は市民レベルでの多彩な国際交流、在留外国人への多面的な生活支援、国際交流センター事業の運営を使命として活動して参りました。近年、川崎市の外国籍の市民は急増して4万人を超えております。この傾向は本年4月に施行された入国管理法改正によつてさ

らに強まるものと予想されます。川崎市制が施行された95年前の市の人口は48,394人でしたが、北は北海道から南は沖縄まで全国から人材が集まり川崎市の発展を支えました。

これからは世界の人材が川崎市に集まりその活躍が期待されます。設立30周年を機に、多文化共生のモデル都市川崎市におけるプラットフォームとしての役割の発揮に努めて参ります。皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶



かわさき国際交流民間団体協議会
会長 山本 忠利

つかえ棒の役割果たす

「川崎市国際交流協会設立30年…お疲れさまでした。」という思いが私には強いです。一緒に「インターナショナル・フェスティバルinカワサキ」などを準備しながら、職員の皆さんの献身的な仕事ぶりに圧倒されてきました。その積み重ねが信頼を呼び、数十か国の人たちが集う、特別な世界のまつりを創ってきたと思います。

当協議会の活動も、外国につながる子どもたちの学習支援や同胞の留学生支援などをし

ている川崎市在住の外国人市民主体の団体がメンバーに加わり、一緒に多文化共生の役割を担うという変化も生まれています。

世界を見ると戦火が絶えませんが、せめてこの街では支え合って生きていきたいと思えます。川崎市国際交流協会はそのための砦です。そして、かわさき国際交流民間団体はつかえ棒の役割に過ぎないかもしれませんが、60のボランティア精神に富んだ集団の力は小さくありません。ともに歩み続けます。

長期にわたり、年間を通してお世話になっている皆様からのお祝い・応援のこぼ

みなさま、あたたかいメッセージ
ありがとうございます!



モトスミ・プレーメン通り商店街も名称を変更して今年で30周年になります。全国で外国の商店街と交流しているのは当商店街だけです。それだけに、地元で国際交流センターがあるのは大変心強く、商店街のインバウンド対策でも協力していただき感謝しています。

今年9月の「ラグビーワールドカップ」、来年の「東京2020オリンピック・パラリンピック」には多くの外国人が来日されます。また、外国人の労働力が多く必要とされている今日、在住外国人にとっても国際交流センターの役割が重要視されます。地域の商店街として、これからもさまざまな形で協力してまいります。

モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 理事長
伊藤 博



国際交流協会設立5年目に国際交流センターが開設され、それから25年、かわさき国際交流民間団体協議会一員として活動してまいりました。協会やセンターとともにイベント等を通じて、着物文化を中心に日本の美しさや所作を伝えてきました。

今後も、外国人市民や観光客の皆様との交流、多文化共生への理解を深める場所として発展されますことを期待しております。

かわさき国際交流民間団体協議会 前会長
東京衣裳きもの学院 学院長
高島 厚子



一握りの学習者とともに始まった日本語支援事業も、今では体系的に初期日本語教育が受けられるコースを中心に、乳児を連れた保護者のクラス、外国につながる児童が通う寺子屋活動、将来の自立を念頭に置いた中高生のクラス、そして「生活者としての外国人」一人一人に寄り添う生活日本語ボランティアと、多岐にわたって展開されるようになりました。令和元年が協会とセンターにとって大いなる飛躍の年となりますように。

地域日本語教育推進連絡調整会議
人材育成コーディネーター
吉田 聖子



It is exciting for me to be a part of the Association's activities which are so valuable in creating an international community in Kawasaki that promotes mutual respect and friendship. In this sense, Kawasaki City is a model for other cities in Japan. As more people from abroad come to Japan as visitors or residents, the work of the International Association will continue to play an important role in creating a harmonious and comfortable society in the new era of Reiwa.

川崎市内の多文化共生を推進し、国際的なコミュニティの育成に貢献している協会事業に携わることができて光栄です。川崎市は国内の自治体のモデルになっています。今後、さらに多くの方が外国から観光で来日したり定住する中、新しい「令和」の時代が平和ですべての人が住みやすい社会になるために、協会が重要な役割を担っていくと思います。

協会主催語学講座講師
Ruth Fallon/ルース・ファロン



At the Kawasaki International Center (KIC) I have been learning Japanese language and culture and meeting people from all over the world for more than two decades. The Center has greatly helped me adapt to life in Japan. As this country internationalizes, KIC provides a good example of how to welcome immigrants and help them make their best contribution to Japan.

20年以上国際交流センターで日本語を勉強しています。そこで、世界中から来た人たちに生かされました。私もセンターのおかげで日本の生活に慣れていきました。日本が国際化していく中で、来日外国人を市民として受け入れ、日本の力になるようサポートしていくにはどうすればよいか。そのお手本が国際交流センターです。

協会登録 通訳・翻訳ボランティア
日本語講座学習者
Erik Tielking/エリック・ティルキング



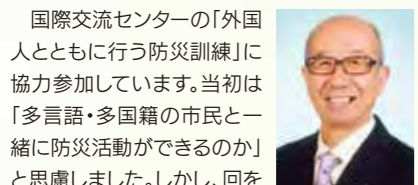
「日本文化の理解を深めたい」と世界各国から留学生、研修生、旅行者らが年々増えています。ホームステイのホストファミリーは、川崎にいないから「海外の文化に触れることができる」良い機会です。そうした一期一会に感謝しつつ、「おもてなし」をこころがけています。

協会登録 ホームステイ・ホームビジット
ボランティア
あお まり
青 摩史



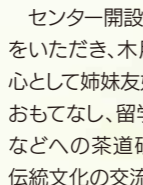
10年ほど前に元住吉に来て、協会主催の語学講座に応募すると同時に、何かの力になりたいと思ってボランティア登録をして以来、イベントの撮影をさせていただいています。語学講座の受講者は年齢・職業もさまざま、講座を通して親しい仲間も増えました。協会・センターは国際交流の拠点としてかけがえのない存在だと思います。

プロカメラマン
協会登録 撮影ボランティア
安田 芳郎



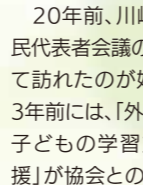
国際交流センターの「外国人とともに防犯訓練」に協力参加しています。当初は「多言語・多国籍の市民と一緒に防災活動ができるのか」と思慮しました。しかし、回を重ね、直接触れ合うことで、町内会メンバーの気持ちや意識も多文化と交流することに変わってきました。今後外国人市民も増えていく中、お互い助け合っ一緒に生活し、国際交流協会・センターとともに住吉地区の安心・安全な町づくりを盛り上げていきましょう。

住吉地区町内会連絡協議会 会長
内田 治彦



センター開設当初よりご縁をいただき、木月庵茶室を中心として姉妹友好都市来客のおもてなし、留学生や小学生などへの茶道研修など日本伝統文化の交流に努め、お茶会を通して各種チャリティにも協力し活動をさせていいただいております。「和を以て貴しとなす」。令和の時代になり、オリンピック、パラリンピック控え、川崎市国際交流協会のさらなる発展をご祈念申し上げます。

川崎国際交流茶道研究会 会長
木月庵を大切にす会 代表
長谷川 宗江



20年前、川崎市外国人市民代表者会議の場に委員として訪れたのが始まりでした。3年前には、「外国につながる子どもの学習支援・自立支援」が協会との協働事業として動き出し、ここで学んでいる子どもたちや支援者の高校生・大学生が、協会の交流イベントでも活躍しています。協会の多文化共生社会推進事業の取組にはいつも感謝しています。これからも学習支援・自立支援の啓発活動を発展させ、行政への働きかけも含め、ともに社会へ発信していきましょう。

多文化活動連絡協議会 代表
「外国につながる子どものための学習支援」コーディネーター
Norman Nakamura/中村ノーマン



2009年から貴協会での「やさしい日本語」の活動にかかわって以来、早くも10年が経ちました。今年からの新たな外国人材の受け入れにより、今後は生活者としての外国人は飛躍的に増えるだろうと思います。多文化共生社会を構築する上でなくてはならないのは「やさしい日本語」です。この面での貴協会の果たす役割もますます重要になります。

国際交流基金日本語国際センター専任講師
協会主催語学講座講師
「やさしい日本語」講師
高 偉建



毎年、川崎市国際交流センターではさまざまなイベントや講義などが行われ、外国人市民だけではなく地域の日本人市民も一緒に参加する「ふれあいの場所」でもあります。私もここで国際理解教育の講師として市内小学校で活動したり、防災訓練に参加して危機に対する意識を高めるきっかけにもなりました。これからも広く市民に開かれた国際交流センターであってほしいです。

多文化交流KJV代表
協会登録 通訳・翻訳
国際理解教育支援ボランティア
孔 敏淑

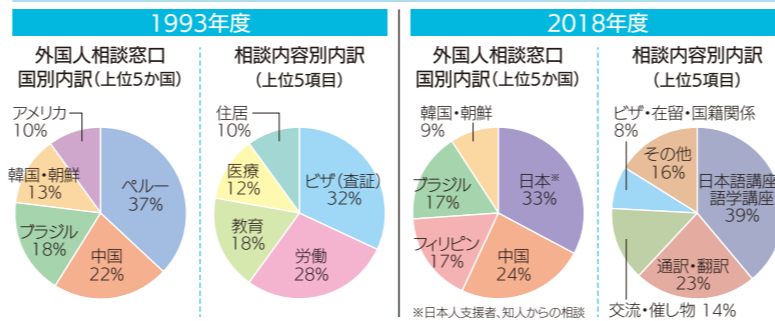
川崎市国際交流協会 30年のあゆみ

平成元(1989年)年8月25日、市民レベルの国際交流活動を推進することにより、川崎市の一層の国際化を図り、国際相互理解の増進と国際友好親善に寄与することを目的に、「財団法人川崎市国際交流協会」が設立され、市役所近くのビル内で業務を開始しました。

そして、平成6(1994)年10月12日には、川崎市の国際化の拠点として、ホールや図書・資料室、多目的広場などをさまざまな機能を備え持つ「川崎市国際交流センター」を開設しました。

平成23(2011)年4月1日からは、公益財団法人に移行し、地域の国際交流活動および国際協力活動を推進するとともに、さまざまな国籍や多様な文化を背景とした人々がともに安心して暮らせる地域づくりを推進し、地域の国際化に寄与することを目的に、事業を実施しています。

外国人相談窓口 国別・内容別内訳



川崎市の国際化の推進を図るとともに、外国人市民向けに6言語での情報提供を行うことを目的として川崎市国際交流協会・センターが発行している発行物を紹介します。



※上記の発行物は、当ホームページでご覧いただけます。(「KAINニュース除く」)

1989年(平成元年)

- 8月 ● 25日 財団法人川崎市国際交流協会設立
- 10月 ● 1日 川崎市住友生命川崎大通りビル3Fに事務所開設
外国人相談窓口開設
(英、中、韓国・朝鮮語。平成3年ポルトガル語、平成4年スペイン語相談開始)
- 国際理解講座と外国語講座の開始
- 通訳・翻訳ボランティア事業の開始

1990年(平成2年)

- 1月 ● 外国人のための日本語講座の開始
- 23日 自治大臣より地域国際化協会として認定
- 2月 ● 協会設立記念「地域の国際化シンポジウム'90」開催
- 3月 ● 協会機関誌「KIAN(キャン)ニュース」創刊
- 4月 ● ホームステイ受入れボランティア事業の開始
- 10月 ● 協会設立1周年記念事業の開催
- 11月 ● 川崎市文化使節団(現:市民交流団) 姉妹友好都市訪問の開始
- かわさき市民まつり「インターナショナル・バザール(国際交流コーナー)」開始(～1998年まで)
- 外国人市民の生活支援のための調査研究事業の開始
- 民間交流団体国際交流事業補助金交付事業の開始

1991年(平成3年)

- 国際料理講座の開始
- 国際情勢講演会 逢坂 剛氏「日本人の国際性」

1992年(平成4年)

- 「外国人生活相談案内パンフレット」(6言語)の作成
- 協会設立3周年記念事業「アジア民族芸能フェスティバル」
- 外国人のための日本理解講座、日本伝統文化紹介講座の開始

1993年(平成5年)

- 姉妹都市 オーストラリア・ウーロンゴン大学川崎研修の開始
- ホームビジット・ボランティア事業の開始

1994年(平成6年)

- 10月 ● 12日 川崎市国際交流センター開設。協会事務所を同センター内へ移転。
- 外国人による日本語スピーチコンテストの開始

1995年(平成7年)

- 4月 ● 川崎市外国人留学生修学奨励金支給事業の開始
- 外国人のための弁護士による法律相談会、相談員研修会の開始
- 地球市民講座の開始
- 6月 ● 阪神・淡路大震災チャリティコンサート「ハーバード大学クロコティロスコンサート」開始(～2015年まで)
- 7月 ● 七夕まつりの開始(～2002年まで)
- 11月 ● インターナショナル・フェスティバルinカワサキの開始

1996年(平成8年)

- ベトナム・スタディツアーの開始(～2003年まで)
- 国際シンポジウム「地域主義と国際政治」開催

1997年(平成9年)

- 国際交流ふれあいパーティの開始(～2002年まで)

1999年(平成11年)

- 11月 ● 協会設立10周年記念講演 山田太一氏「他者との出会い」
- 国際協力How to講座の開始
- 子どものための国際理解の講座(～せかいはともだち～「地球っこクラブ」開始)
- 外国人のための生活体験講座の開始(～2002年まで)

2000年(平成12年)

- 外国人のための「交流手帳」の発行(増刷)
- 中国語による国際理解講座の開始
- ボランティア研修会の開始

2001年(平成13年)

- 地球を知ろう講座の開始
- 多言語情報紙「ハローかわさき」(6言語)の発行開始

2003年(平成15年)

- ふれあい交流会の開始(国際料理講座より名称変更)
- 春休み小学生のためのはじめての英会話講座の開始

2004年(平成16年)

- 小学生のためのこども中国語教室の開始
- タガログ語の相談開始

2005年(平成17年)

- 「カナガワ ビエンナーレ国際児童画展」川崎巡回展の開始

2006年(平成18年)

- 4月 ● 国際交流センターの第1期指定管理業務受託(～2011年3月末日)
- ホームページによる情報提供の開始
- 「国際交流センターだより」の発行開始
- 外国人市民のための伝統文化体験の開始
- 夏休み・春休みこども語学教室(英語・中国語)の開始
- 青少年国際交流事業(日本人・外国人中高生との合宿交流)(～2008年まで)
- 国際文化交流会、国際文化理解講座の開始
- 川崎市国際交流センター活用推進検討委員会の設置
- 麻生区役所と川崎区役所に相談窓口を開設(～2017年まで)

2007年(平成19年)

- 第3回アメリカンフットボール・ワールドカップ2007川崎大会の支援
- 「やさしい日本語」への取り組みを開始
- 国際理解教材の貸出しを開始

2008年(平成20年)

- 9月 ● ブラジル移住100周年記念「ブラジリアン交流フェスタ」開催
- U-19グローバルチャレンジボウル2009川崎大会の支援
- かわさきボランティア・市民活動フェアの開催(共催)
- 市民共同おひさま発電所の設置
- 日本語による国際理解講座の開始(～2015年まで)

2009年(平成21年)

- 4月 ● 協会機関誌「KIANニュース」を季刊誌「SIGNAL」に刷新、発行
- 11月 ● 協会設立20周年記念事業コンサート開催

2010年(平成22年)

- 多言語情報紙「ハローかわさき」にやさしい日本語を追加
- 川崎市市制記念コンサート「ライナー・キュッヒル ヴァイオリン・リサイタル」開催(共催)

2011年(平成23年)

- 4月 ● 1日 国際交流センターの第2期指定管理業務受託(～2016年3月末日)
- 多文化シンポジウム「外国人の立場から考える地震災害 みんなが安全に生きるために」開催

2012年(平成24年)

- 2月 ● 川崎市との間で「災害時多言語支援センター」の設置に関する協定を締結
- 4月 ● 1日 公益財団法人に移行
- 12月 ● 多文化共生推進イベント(Winter Gathering)の開催
- 親子で学ぶ日本語サロンを開始

2013年(平成25年)

- 外国人が見た「カワサキ」フォトコンテストの開始

2015年(平成27年)

- 日本・ブラジル外交関係樹立120周年記念「ブラジリアン・フェスタ」開催

2016年(平成28年)

- 4月 ● 1日 国際交流センターの第3期指定管理業務受託(～2021年3月末日)
- グローバルセミナーの開始
- 多文化ショーステージの開始
- 外国につながる子どもの支援(小学校入学説明会、学習支援、高校進学ガイダンス)の開始
- 生活にほんごサロン開始
- 留学生との交流会を開始

2018年(平成30年)

- 外国につながる子どもの寺子屋事業開始

2019年(平成31年・令和元年)

- 外国人相談窓口の拡充(予定)
- 9月 ● 9日 協会設立30周年、かわさき民間団体協議会発足25周年記念講演の開催(予定)
- 10月 ● 設立30周年!!
- 12日 協会設立30周年、センター設立25周年記念事業の開催(予定)